

令和元年5月31日



# 茅ヶ崎中学校だより 6月号

横浜市立茅ヶ崎中学校 TEL 941-0601

校長 高山 俊哉 FAX 942-9216

E-mail : y2chigas@edu.city.yokohama.jp

学校HP : <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/chigasaki/>

## 「道のりを想う」

校長 高山 俊哉

長かった10連休が終わり、5月からはいよいよ本格的に学校生活がスタートしました。1年生は足柄ふれあいの村に遠足にでかけ、新しい仲間づくりのためのさまざまな活動を通し、絆が深まったのではないかと思います。部活動も本格的にスタートして、この一週間はその姿もかけ声もすっかり板についてきました。

2年生は、真ん中の学年として文字通り学校の核（コア）となって支えていく立場です。学習活動や部活動で、生き生きと活動する様子に頼もしさを感じています。29日は東京遠足でした。天気が心配されましたが、自分たちでたてた計画に基づいてしっかり行動できました。

3年生は、今年度一年間、すべてに「集大成」という言葉がついて回ります。先日の修学旅行はこれまでの3年間の集団生活の学びをいかした大変素晴らしいものでした。特に地元の方たちと触れ合った南島原の民泊では、慣れない作業に黙々と取り組み、また、お互いを大切にしながら笑顔で人と接し、とても心に残るものになりました。3年生の中にも「このまま明日もここでよい」という声がありましたが、地元の皆さんからも「このままこの子たちをここに置いていってください。」とたくさんの方から言っていただきました。退村式の最後のセレモニーでの3年生の涙が印象的でした。

さて、学校は今多くの“目標”にあふれています。個人の目標、クラスの目標、委員会の今月の目標、部活動の今年の目標、行事の目標・・・実にさまざまな目標が学校中に貼り出されています。自分や自分たちの行き先をはっきりさせ、そこに向かって頑張る。そういった意味で目標はとても大切なものですし、励みになると思います。実際に、皆さんはスタートしたての今、その目標を心に念じ頑張ろうとしていると思います。



ゴールテープを見事に切る瞬間をイメージすることはとても大切だとは思いますが、それ以上に考えなくてはいけないのは「では、そのゴールにたどり着くために今どうするのか」ということです。目標はあるけれど、そのために今日何をするのか、しなければならないのか、を考えている人は決して多くはないのではないかと思います。目標と今との大きな隔たりを、今日はここまで、明日はここまでと埋めていく“間を埋める作業”が必要だと思っています。「〇月〇日。〇〇となっている」そんな設計図を書いてみませんか。今年一年の皆さんの成長を心から楽しみにしています。

## PTA 総会

5月10日(金)に、本校体育館において PTA 総会が開催されました。一年間の活動を決める大切な会議であり、議題はすべて、賛成多数で原案が通りました。運営や会計についてのご意見もあり、本部役員・教職員ともに協力して取り組み、さらにより茅ヶ崎中学校 PTA にしていきたいと思えます。みなさん、ご協力よろしくお願いたします。《副校長》

## プール清掃

5月12日(日)、初夏を思わせる晴天の下、プール清掃が行われました。例年、おやじの会の皆様にご協力をいただいています。夏季のプール使用に向けて、水泳部員とともにたいへんきれいにさせていただきました。プール開きが楽しみですね。《副校長》

こんにちは。水泳部部長です。5月12日(日)に、プール清掃を行いました。『おやじの会』のみなさま、来ていただき、どうもありがとうございます。みんなできれいにしたプールで部員一同、気持ちを新たに励みます。《水泳部長》



## 1年 遠足

5月14日(火)に、校外学習の先陣を切り、1年生が「足柄ふれあいの村」へ遠足に行きました。あいにくの雨でしたが、プログラムを順調にこなす中で親睦を深めることができました。1年生たちのこれからの活躍に期待します。《副校長》



## 谷口記念樹

東門横の斜面に、桜の木が1本、おやじの会の皆さんの手で植樹されました。『谷口記念樹』です。

谷口昌彦先生は、先々代の校長先生でした。ご退職後もおやじの会と協力して、毎年、体育祭の準備や警備、ふれあい祭のお手伝い、また、3年生の地域清掃の時にはお餅をついて労をねぎらっていただいています。

いつもお元気な谷口先生でしたが、急に倒れられ、平成31年3月9日にお亡くなりになりました。生前の谷口先生を偲び、有志の方たちで記念の植樹をしました。いつまでも、登下校する生徒たちを見守ってください。《副校長》



### 3年 修学旅行



令和初の修学旅行は、行き横浜の大雨からは一転、3日間天気にも恵まれ学年全員が“楽しい”と思える修学旅行でした。三年生のクラスで臨む最初で最後の宿泊を伴う行事、たくさんの不安と期待が入り混じるなか、長崎へ旅立ちました。

一日目は、長崎につき、民泊体験をさせていただき南島原へ向かいました。道中の雲仙普賢岳を臨むみずなし本陣では、地元料理の具雑煮で旅の空腹を満たし、各家庭での民泊体験となりました。顔を合わせたばかりは恥ずかしさや緊張もありましたが、南島原の方々の温かさにもふれることでその緊張もほぐれ、“家族”の一員として時間をともにすることができました。二日目の離村式では、本当の家族と別れるような寂しさに、涙をする人も少なくありませんでした。私も、別れが寂しくなったうちの一人でしたが、ほんのわずかな時間の中でも、人とのつながりはこれほどまでに強くなるのかと感動しました。

二日目は班別自主行動で、事前学習をし、更に班で話し合ってきた長崎市内の見学地を数多く訪れました。二年次に行った横浜校外学習と比較すると、同じ開港地ではあるけれど、趣の違いに驚かされました。特に長崎市内の地形は起伏が激しく、徒歩での移動が大変でした。見学地によっては、かなり長い坂を歩いた班もあったみたいで、二日目ということもあり、疲労も見られる人もいました。しかし、目新しい長崎市内の路面電車や長崎ちゃんぽん、皿うどんなど楽しみもたくさんあり、充実した市内見学となりました。二日目は更にそこから移動し、ペーロン体験へと出かけました。ほとんど経験したことのないオールを使っての体験は、班別行動の疲れと合わせて私たちには体力的にきついものでしたが、クラスの仲間と声と気持ちを合わせて前進し感じる海の風に疲れよりも、すがすがしさを達成感を覚えました。ホテルでは、長崎の1000万ドルの夜景とともに、仲間と普段体験することができない寝食を共にしました。どんな些細なことも仲間と過ごす時間の中では思い出に残るものでした。

三日目は、この修学旅行のメインである平和学習を平和公園で行いました。改めて長崎の地に立つことで、原爆被害の悲惨さ、戦争の悲惨さ、死の恐ろしさを肌で感じるすることができました。仲間とともに、平和学習の一環で練習を重ねてきた合唱『クスノキ』。今までの想いを込めて学年全員で歌えたことに感動しました。

どの場面を切り取っても、赤学年の仲間には“笑顔”があふれていて、長崎を去ることが寂しく、“もう一泊・・・”という気持ちがありました。そんな気持ちにさせてくれたのは、この日まで支えてくれた家族や先生方、そして何よりも当日時間をともにした仲間がいたからです。赤学年、みんなが“笑顔”で帰ってくることができた修学旅行を一つの成長として、これからも生活の中にたくさんの“笑顔”を生み出したいと思います。 《修学旅行実行委員長》



### 連絡

ハマ弁の当日注文が5月27日から始まり、より便利になりました。詳しくは、配布されております6月の献立やハマ弁HPでご確認ください。

暑くなってまいりました。お子様には、しっかり睡眠や食事・水分を取り、体調を整えて学校生活に臨むよう、ご家庭でもご支援お願いいたします。